The Osaka University Library Bulletin

大阪大学図書館報

Vol. 2 No. 2 Mar. 1968

視聴覚室がデラックスになります

本館３階の視聴覚室には現在，エルモ16ミリトーキー映写機，同８ミリ映写機，同オートスライドを備えている。これらによって映写会，スライドによる講義やオリエンテーションを行っているが，これは視聴覚のいわば視覚機器だけであり，あとの半分聴覚機器は，未だ準備がなかったわけである。そこでこのたび視聴覚室整備充実のため，音響装置一式とＬＬ（語学自習装置）を備えることになった。音響装置とＬＬの利用を早急に開始する準備を進めている。以下その装置機種とその利用方法を簡単にお知らせしよう。

(1) **音　響　装　置（ステレオ）**

1. アンプ（Sony TA—1120）　チューナ（Sony ST 80 型）を独立
2. レコードプレーヤー　　カートリッヂ（Sony VC 8E）
3. スピーカー（ランサー77　山水電気）
4. テープレコーダー（Sony 録音専用 TC 350 型）とテーププレーヤー（Sony 再生専用ＴＣ 660 MD 型）
5. センターラック（上記1.2.4.を機能的に配列格納するケース）

以上，ステレオの主要点であるアンプ，カートリッヂ，スピーカーは上記の機種によってその性能音質は十分満足が得られと思う。

このステレオの利用方法としては以下のようなことが可能である。

1. ＦＭ放送，ＡＭ放送
2. レコード演奏
3. テープ録音（上記１と２の録音も可能）
4. テープ再生（上記３のテープ→テープ再生）

以上のように多角的な利用が可能であり，高級なステレオルームが完成される。

(2) **語学自習装置（Language Laboratory）**

1. ブーステープコーダー（Sony ER—70A）
2. ヒアリングテーブル（10人用）
3. ヘッドフォン（ＨＳ—20Ｃ 10人分）

以上は教養課程語学教室ＬＬの自習用ヒアリングシステムとしての役割をになって設計されたものであり，１テーブルに10人分のヘッドフォンを備えて，テーブル中央のブーステープコーダーから聴くことになる。この設備は視聴覚室に納まらないので，２階閲覧室の一画を仕切って利用することになる筈である。

図書館改善の歩みと今後の問題点（一）

直　木　一　郎

本学において近代的図書館といえる施設ができたのは昭和34年に建物が完成した中之島分館が初めであり，翌35年に豊中地区に建設された現在の本館建物は，そのままでは単に図書を収蔵する倉庫にしか過ぎなかったといえますが，40年度に増築された閲覧棟の完成によってようやくその体面を保つことになりました。一方業務執行の組織の面では，本学創立以来職員が各部局に分属し，部局ごとにバラバラに図書業務に従事していまして，全体的統一がなかったのを，35年４月中之島分館の開館のときに，医・理・歯・微研・蛋白研から所属職員を同分館所属に切り替え吸収し，本館では，従前の数名の本館職員と，35年４月旧南北両分校職員を，さらに39年４月文・法・経の３学部所属職員を本館所属に切り替えて統合し，いずれもそれぞれの関係部局の図書業務を集中的に処理することになりました。これによって本学の図書館業務の大部分が有機的に，かつ，能率的に実施できるようになり，本学図書館改善への道を踏み出しました。

ところで，図書館の改善―近代化―とはよい図書館にすることであります。それは学習図書館であれば学生が自然に引きつけられる魅力ある図書館です。そのためには，(1)学生が落ちついて能率の上がる学習ができる閲覧室―環境であること。(2)多人数の学生に対して，各自が求める資料をそろえていて，すぐ読むことができるような方式になっていること。(3)館員は質問に対し適確な答えが早くできて，親切であること。などの条件を満たさねばなりません。研究図書館ではおおかた上記のほかに，(1)研究者が要求する資料を一刻でも早く提供し，閲覧に便利な手段を整えること。(2)大学内の資料が限られた範囲，人だけでなく全学的に利用ができ，国内はもとより世界各国にある資料をも利用のため要求できる体制にあることが必要な条件となります。なおそのうえ，全体にわたって経済的運営がなされることが必要であります。

以上の記述はたいへん素朴で抽象的な表現になりましたが，これが本学図書館の現時点で実現に努力しなければならない最も基礎的な目標であります。このほかにまだ図書館活動の分野があります，たとえば学生の教養を高めるための視聴覚活動，各種資料の展示などです。しかしこの基礎的目標を実現するにしても多くの具体的方策や技術的手段の採用が図書館の内外にわたって必要となってきます。しかもこれを整えるにはかなり困難な問題も含んでいることは事実です。その主なものは施設と，職員の量と質の問題であり，次ぎには予算と組織の問題です。これらの問題の解決は終局においては図書館活動の効果に対する評価によって決まることですが，少くとも上記の基礎的目標を達成するための外部的方策，手段の裏付けが望まれる次第です。

以上で本学図書館の近代化のあけぼのと近代化の基礎的な姿を描きました。つぎにそれに対応して本学図書館の現実の姿と改善の問題点を摘出したいと思います。本学附属図書館にはいうまでもなく本館のほかに中之島・工学部・薬学部・産研の４分館があります。このうち近い将来産研と工学部の２分館が吹田地区に移ることになっており，一足さきに移った微研の図書室が現在中之島分館の分室のような形になっているので，これらの移転部局の分館・図書室のあり方は今後検討されるでしょうから，ここでは主に本館の事情について述べることにします。それは本館が本学では最も大きい学習図書館であり，かつ，多数の部局の研究図書館の役割り

を負うているうえ，総括的業務も担当していますので，それだけに問題も多くもっているからであります。本館には分室の形で理学部と基礎工学部の図書室がありますが記述の便宜上一応これに関することはここでは省きます。

施設について

昭和35年に完成した第1期工事の建物は旧南校の施設を建て交換によって取得したものであり，少ない予算であったため設計などについて苦心があったことと思いますが全体的に当時の状況からみて小さいものでありました。一例をあげますと閲覧室の面積約300m² しかなく，このなかに閲覧図書の書架が置かれていたので座席の数は100席しかありませんでした。このときの学生数は文・法・経3学部で560人，教養課程で2,120人（現在4,000人）合計2,680人であり，学生数に対する座席数の比はわずか3.7％でした。このほか他の室の数，面積，廊下階段の広さなどすべての点が縮尺化して設計されていることは，40年度の閲覧棟の増築に対して制約を受け使用計画のうえで大きな障害になりました。たとえば開架閲覧方式で座席数500人分に適応するロッカーを置く室や，雨天のとき入館者の傘を置く場所が取れず，入口で入館者をチェックすることもできません。建物の模様替えをしてこれらの室などを取るとしてもチグハグの状態となりますし，他の用途に使用する面積を圧縮することになります。最も心痛していることは増加する学生の閲覧用図書を開架方式で置く場所がないことです。1階の開架室は飽和状態で現在でもここに出すべき図書がかなり閉鎖書庫に文科系学部の研究用図書とともに入っているので学生の目に入らない状態です。旧南校から移した本もその一部です。近い将来教養部学生に対する指定図書制度が本学にも実施され，1人当り4冊×2,000人(入学定員)＝8,000冊の購入予算が2カ年間続いて配当された場合に，この図書をほかの図書と区別して開架方式で配架する必要があるだけに極めて困難な事態になります。2階や3階の閲覧室には床の強度の関係上多量の本を置くことができません。この窮状を打開するには開架面積を含む書庫を増築する以外に方法はありません。毎年23,000冊増加する研究用図書を，書庫が充満しているために必然的に教官研究室に分散所蔵し，過去の累積と相まって研究室もまた書庫と同様の充棟状態になることを防ぎ図書館の機能を高めるためにもこれは絶対に必要であります。書庫内における図書の管理もこれによって改善されることになります。（続く）

（附属図書館事務部長）

BGM試験放送開始　　本館2階大閲覧室

1月17日（水）よりBGM（Background music）が2階大閲覧室で試験的に流れている。BGMとは一口にいって，人々の集まる職場や公共の場でだんだん使用されている音楽で，聞く音楽でなく感じる音楽として，まわりの騒音を心理的に中和する効果（マスキング）がある。2階閲覧室は明るく開放的で，利用者の出入り移動が激しく，又椅子が可動であることや，更に利用者がグループで自習したりする等のこともあって比較的騒がしいのでこの試みとなったわけである。

なお，この機種は「住友3M・Cantata 700」であり，700のメロディックな曲をテープに収めている。このため利用者は，テープが終って又同一の曲が反復されるのを感じないはずである。テープが終るまで80時間は要する。操作は非常に簡単で音量の調節ぐらいである。なにぶん試験的実施であり，適当な日をえらんで利用者にアンケートを依頼する予定である。

会　　議

―豊中地区運営委員会―

43.1.23(火) 4.30～5.30pm　於　本館会議室

①運営委員長の改選　1月末日で任期が切れる木村委員長（法）の後任に教養部今堀教授を選んだ　②予算節約に伴う本年度本館運営予算の一部修正　原案どおり承認した　③昭和43年度本館営繕工事の要求　閲覧室に冷房装置の設置などを要求していることを報告した④視聴覚室の整備　音響装置及び語学自習装置などの設置計画を承認した（予算約82万円）⑤本館閲覧室に Background music の試行　試行することにした　⑥医療短大の運営委員会加入　当分の間オブザーバーとして出席することにした　⑦関西経済連合会よりの寄贈新聞　扱い方と保存方法などを検討した　⑧図書館と地階食堂との間の階段の閉鎖　閉鎖することに決定した。

―中之島分館運営委員会―第29回―

43.1.9.(火)―4.00～5.00p.m.　於　中之島分館会議室

①微研への未製本雑誌の一日貸出　微研側が特例をつくることはよくないとして，要望を自発的にとりさげたので解決した　②分館長の改選　河村現分館長の任期が2月16日で切れるので投票の結果，医学部坂本委員が当選した。

―工学部分館運営委員会―

43.1.30(火)―1.00～3.00p.m.　於　中会議室

（議題）吹田図書館基本設計図の決定　図書館建設小委員会での成案について，設計者である岡田委員（建築学科教授）より詳細に説明があった。討議の結果，二三の細部について修正されることになったが，全体的な配置構成については承認された。これにより吹田図書館は具体的な実施設計の段階に進むことになる。なお，すでに同図書館の主要部分に空気調節装置が備えられることは決定されている。

（概要）総面積 1,740m² 2階建，竣工予定本年12月。1階には，第一閲覧室（100人収容），書庫（自由接架，積層式，12万冊収容），事務室，機械室。2階には，第二閲覧室，視聴覚室（各100人収容），印刷室，会議室等が設けられる。なお移転後当分道路事情が悪いことを考慮して，第一閲覧室へ入るときのみ上履にはきかえることになった。

―産研分館図書委員会―

42.11.22(水)―1.00～2.00p.m.　於　図書室

①移転に伴う休館　1月15日で館外帯出を中止，以後1月31日までは，新着雑誌に限って館

内利用をみとめる。2月15日より3月31日まで休館。4月はできるだけ早い時期に開館する。休館中の長期貸出の希望もあるが，例外はみとめない。ゼロックス複写は可能なかぎりみとめる。但し途中で事務室へ移動する ②移転後の貸出しシステム 当分は現行のままにする。吹田地区工学部が移転してきたのちに，状況をみて利用しやすいシステムを考える ③見計本の回覧 12月中で中止し，1～3月は研究室毎に，直接業者にまわってもらう ④バックナンバーが研究室と図書室に分散している雑誌 移転を機により必要な方へ統一して配置するよう，研究室と相談する ⑤ORNL，原子学会雑誌など，新館に収用能力が少ないため，放射線実験所々長室に配架する。

———基礎工学部図書委員会———

43.2.8(木)—1.30～4.00p.m. 於 中会議室

①3学部（理・薬・基礎工学部）学生の「共通閲覧券」の取扱い 現在3学部の学部学生の図書貸出については，自分の所属する図書室以外の図書室で貸出を受けるとき「共通閲覧券」の交付を必要としたが，利用する学生のためにも，またカウンター業務の合理化を促進するため，教職員，大学院学生同様，図書券による貸出システムに改めるよう，理・薬学部に申し入れ，同意が得られれば，来年度より実施する ②学術雑誌の購入方法 現在の中央経費による雑誌購入については，毎年各学科から出される新規購入希望雑誌の決定が，たとえば機械工学科，合成化学科といったように専門分野がことなるためその判定が難しく，また現在購入している364種の雑誌についても，学科間の不均衡が心配されるので，中央経費による購入方法に改善を加えることが懸案となっていたが，精細に調査した結果，現時点では，購入雑誌の種類は平均化されている，購入費のしめる割合が学部物件費の3.42%では，あえて現在の方法を改める方法はないと決定した。

———ドキュメンテーション講習会(文部省主催)—第1回———

43.2.6(火)～8(木) 於 松下会館四階講堂

今年の講習会は，"学術情報流通過程における学術雑誌の諸問題"を中心テーマとし，学術情報の流通過程において主要な役割を果たす学術雑誌の本来の在り方の分析と，**ドキュメンテーション**の面からみた望ましい学術雑誌の作成法の問題などについて，講義とパネル・ディスカッションが行なわれた。対象は大学・学会等の学術雑誌の編集関係者および研究者・文献担当者・図書館職員などで，大阪会場には西日本各地から約90名が参加した。大阪大学各部局からも関係者21名が熱心に受講した。

希望図書箱の設置

利用者の購入希望図書は今までは10月前後の一定期間に募っていたが，今年から2階大閲覧室に希望図書箱を設けて，1週間毎に開き，購入したものは出来るだけ早く掲示することにした。これによって利用者と図書館との間をより密接にしたいという意図である。

■ 使用予定の指定図書調査実施

教官指定学生専用図書を講義にとり入れ，多くの場合，試験の際にもそれを出題の対象とするいわゆる指定図書制度は，一部大学で実施され好評を博している。本学でも教養課程学生に対しては，萠芽的形態であるが毎年配布される閲覧用図書整備費によりこのシステムをとり入れているが，専門課程学生についてもこれを実施すべきだという声が図書館長会議などで強調され，当館では，昨年末図書館委員会の了承をえたので，今回，各学部講師以上の教官に対して使用予定の指定図書の調査を実施した。調査方法は，教官１人１授業科目につき５種類の図書を挙げてもらい，更に参考として使用中の教科書や推せんする参考書も附記ねがった。これらの調査は新年度以降の集書計画の参考にしたい。

■ 食堂への通路閉鎖

本館と地下食堂との階段は，１月23日の豊中地区運営委員会の決定にもとずき，シャッターをおろして閉鎖します。従来からも図書館と食堂が同居していると，食堂のにおい，喧騒さが閲覧室に筒抜けで勉学の妨げになる上，火災予防上からも問題があったので，とりあえずシャッターをおろしました。

分館だより

工学部分館

吹田地区への学部移転のはしりとして，応用化学・醗酵・冶金・溶接・原子力の各工学科が４～６月にかけて順次移転するが，これにともないこれら学科の学生，研究者に対する図書館業務が問題となる。図書館の移転は来年早々の予定であるが，それまでの約１年間および図書館移転後なお東野田地区に残存する学科の移転完了までの期間約半年，いろいろな支障を来たすことは必至であるが，図書館側の努力は当然のことながら各学科図書室との積極的な協力によってこの困難な２年間を乗りきりたいものである。

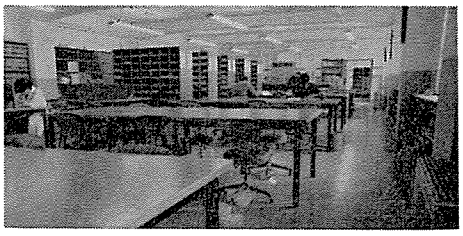
産研分館

２月１日より産研は放射線実験所から吹田地区への移転をはじめた。図書館の輸送作業は，２月21日より４日間行われるが，２月５日現在，本のコンテナー詰め作業をはじめている。一週間で梱包作業を終わり，12日より17日までの間に書架の解体，運搬，新館での組立てを終了する予定にしている。

運搬後は，３月末までにひととおり配架，および整理をおえる予定であるが，枚方分室の3,000余冊が未整理，未分類のままなので，これには新年度にはいってから整理にあたるはずである。４月からの開館もこれらを除いた部分に限ることになる。ゼロックスは，３月初めより使用できるが，図書館所有の文献の複写は，４月開館までしないことにしている。

☆☆☆ 分館めぐり (2)☆☆☆

—理学部図書室—



われわれの図書室は昭和41年理学部の豊中地区への移転にともない，中之島分館から分離独立し，理学部構内に設置された図書室で整理，閲覧等一連の図書館業務を扱うことになった。ここで勤務している図書館職員は，附属図書館の籍である。運営に当たるのは，理学部図書委員会で，予算，規則の改正および図書資料（学術雑法，学生図書）等の購入決定等を協議している。この図書委員は，大阪大学図書館委員２名と数学科，物理学科，化学科（高分子学科）生物学科と各学科の教官１名とによって構成されていて，学術雑誌，学生用図書，参考図書等の選択，また図書室と利用者とのパイプ役となり多忙な時間の中で，直接図書室運営にたずさわってるる。またこれとは別に各研究室に教官の中から図書係というのが図書館長の委嘱によって任命されており，研究室と図書室との種々の業務の窓口になって，公用図書の貸出・保管といった，身近かな仕事を扱っている。

図書室面積および座席数

面積			座席数	
閲覧室	書庫	事務室	閲覧室	書庫
189m^2 (約60坪)	延294m^2 (約90坪)	26m^2 (約８坪)	48	3

この学部図書室の大きな特徴は，研究図書館ということである。このことは構成されている図書資料からも十分うかがえる。理学部の歴史とともに収集された資料は質，量の点でも自負するに足りるものがある。それらが，中央集中管理によって一層その価値が高められていると考えられる。もちろん学部学生に対するサービスがおろそかにされているのではなく，学生に対しても研究者に近い学究態度が要求されているように感じられる。学生が自習するためには別の階に学生自習室（56m^2）があって，夏はクーラーがあり，自由に使用できるような設備が設けられているのも図書室の利用目的を明確にさせている。

規模の点では別表に示すとおり，十分な広さとはいえないが，学部図書室としては，まず満足すべきものでないかと思う。資料の効果的な配置によって不足がちなスペースをカバーし，現在のところ利用に不便はないと思われるが，最近の情報量の増加を考えると楽観は許されない。例えば，閲覧室に配架されている抄録誌の１部を書庫内に収めなければならない事態も目に見えている。設備の点では，ほぼ完成された感がある。したがって残された問題は，内部の問題としてレファレンス・ツール，学生用図書の整備と充実が当面の課題であり，とくにレファレンス・ツールの不足が目立つようである。ついで，いづこも同じ，職員の質，量の充実である。その外，図書間相互の問題として，分館間の相互利用の問題があげられる。今後今以上に相互利用が，大きく叫ばれるにともない，持つもののなやみも大きくなるであろう。とはいえ，以上多くの問題をかかえているにせよ，多くの利用者に，利用されてこそ，図書室の価値があり，その意味では当図書室が自然科学分野の図書室としてしめる役割は想像以上のものがある。同時に図書室をあずかる一人として一層の努力を払わねばならないと考えている。

■学術映画会

本館には3階に視聴覚室があり，スライドを使ったオリエンテーション・講義等に使はれているが，このたび従来までときに応じて行なっていた16ミリ映画会を毎月必らず1回以上行うことを計画している。主として毎日産業映画教室・大阪府教育委員会・アメリカ文化センター等と契約してフイルムを供給してもらう。映画会は豊中地区の要所に掲示するはずである。

人　事

新分館長に坂本教授—中之島分館

中之島分館は1月9日に開いた運営委員会で，河村分館長の任期満了に伴う後任に医学部坂本幸哉教授を選んだ。任期は2月17日から2年間。

新委員長に今堀教授—豊中地区運営委員会

豊中地区運営委員会では，1月23日木村慎一委員長（法）の任期満了に伴う後任に今堀宏三教授（教）を選んだ。任期は2月1日から1年間。

職員の配置換

調査資料掛長　近　岡　　忍（受入掛長）
受入掛長　浅　野　次　郎（調査資料掛長）

日　程

3月13日（水）　近畿地区国立大学図書館連絡会議（大阪大学）
3月18日（月）　近畿地区国公立大学図書館研修企画委員会　第4回（大阪市立大学）
4月18日（木）　近畿地区国公立大学図書館協議会　第37回例会（奈良教育大学）
〃 22日（月）　全国国立大学図書館長会議　第1回委員会（東京大学）

来　訪　者

12月27日（水）　アメリカ図書館協会国際連絡局長
　　ハーバード大学医学図書館長　ラルフ・エスタークェスト
1月25日（木）～26日（金）
　　東京芸術大学附属図書館長　池ノ内友次郎
〃 30日（火）　東京大学附属図書館閲覧課長　黒住　武　他3名
2月1日（木）　文部省情報図書館課専門員　平山勝英　他1名
〃 6日（火）　東京大学附属図書館長　伊藤四十二
〃 6日（火）～8日（木）
　　文部省情報図書館課長　立松秋雄　他3名

大阪大学図書館報　Vol. 2 No. 2　昭和43年3月1日発行（隔月刊）　編集発行人　直木一郎
発行所　大阪大学附属図書館　豊中市待兼山町1の1　☎池田 0727(61)1125 内線2126